

自校教育科目「法政学への招待」

開講3年目の授業を終えて



2013年春学期で3年目の授業を終えた「法政学への招待」。今期も「尾木ママ」や朝日新聞記者の板橋洋佳さんなど、この授業ならではのバラエティに富んだ講演者が並びました。

最終回の授業は恒例となったプレゼンテーション大会。当日、ランダムに組まれたグループで「法政大学と私たちの未来」をテーマに、グループごとのアイデア・提案が発表されました。最優秀グループに贈られる「総長賞」は、副賞が「えこぴよん」ぬいぐるみということもあってか、どのグループも熱の入った発表となりました。

以下に詳しい報告を掲載します。

開講3年目は履修者数が大幅増

開講3年目となった2013年度の「法政学への招待」は、履修者数も180名を超え、外濠校舎大教室での開講となりました。担当は今年度からの鈴木靖国際文化学部教授、昨年に引き続き小林ふみ子文学部准教授で、全14回を進行しました。



各回の内容はこれまでの流れをおおよそ引き継ぎつつ、新たな試みも交えたものとなりました。市ヶ谷キャンパスの地理環境について学ぶ回、法政大学の歴史を日本の近現代史のなかに位置づけて捉える歴史編が7回、本学の中国や韓国との深いかかわりを知る回、およびそれ以外に、校歌について学んで応援団によるパフォーマンスとともに聞く回（薩埵ホールで実施）、現在活躍中の先輩の話を聞く回、本学の特色ある研究所について学ぶ回、世間でも話題となる研究を手がけている教員から講義を受ける回、そして最後に講義内容をふまえて法政大学の未来を考え提言をまとめる回（スカイホールで実施）と、本年も多彩な内容を一学期の1コマに凝縮したものでした。

大きな印象を与えた新しい試み

新しい試みとしては、現代史の回に、戦後、60年代・80年代の本学の学生生活を撮った映像を上演したことです。この同じ市ヶ谷キャンパスで、まだ貧しさも残る日本社会のなかで自分たちは何をすべきかを模索する60年代の学生の姿、生き生きと青春を謳歌する80年代の学生たちの様子を撮った動画は、受講生たちにとっても新鮮な驚きを以て迎えられたようでした。

もう一つ、新たな試みとして、歴史編の最後に全体をふり振り返りながら、そのなかで「自由と進歩」の校風を考える回を設けたことでした。「自由と進歩」という言葉は、実は薩埵正邦やボアソナードの時代から言われていたわけでないことには驚いた人もいたようです。この校風は、彼らの講じたフランス自然法思想にある権利ある個人の自由ということが底流しつつも、総合大学として歩み始めた大正・昭和初期の本学に集った、野上豊一郎・内田百閒等夏目漱石門下生たち、西田幾多郎の京都学派の三木清・戸坂潤といった学者たちと彼らに学んだ学生たちが形成した進歩を求める自由な気風によって作りあげられたもので、「自由と進歩」というかたちの言葉として定着を見たのは戦後のことです。最初から「建学の精神」があってその墨守を勧めるのではなく、教職員と学生とで作りあげてきたというのも本学らしいところですね。

今回のゲストは「尾木ママ」、板橋洋佳さん

今年度の教員ゲストには、「尾木ママ」の愛称で多くの方々に親しまれる教育学者の尾木直樹教職課程センター長をお呼びしました。いろいろなテレビ番組で見る多方面での活躍とは別の、いじめの問題をはじめとする子どもたちの教育の諸課題に真剣に向き合う学者としての貌に非常に感動したという学生も多かったようです。

また先輩ゲストとしては、朝日新聞記者板橋洋佳さんをお迎えしました。日々のニュースだけでなく、独自の視点から社会の問題を暴き出して取材を重ねて記事にする、いわゆる調査報道に取り組まれ、郵便不正事件に伴う大阪地検による証拠改ざんをスクープしたことで新聞協会賞を受けられた法学部の卒業生です。ときに身を危険にさらしてまで社会の問題に真剣に向き合う気迫に圧倒されつつ、その下地は大学時代の学びや諸活動にあることを聞いて多くの学生が刺激を受けたと書いていました。



恒例となったプレゼン大会「法政大学と私たちの未来」



最終回のグループワークによる総長御前プレゼンテーション大会「法政大学と私たちの未来」も活発に行われました。今年度はボアソナード・タワー最上階のスカイホールで、ボアソナード博士の胸像に見守られての実施となりました。詳細は[まとめの文書](#)をご覧くださいと思いますが、積極的にグループワークにとり組みながらの提言だけあって、学生に主体的・能動的に参加する機会を提供するような学生参加・双方向型の授業への希望、また専門性を極めることも大切だが、テ

ーマに則して学部を超えて学べるしくみへの要望や、幅を広げたり異分野の知に触れたりする機会の充実の希望など、意欲的な提言が多く出されて、頼もしい限りでした。担当者として、私たちが積極的に多くの教職員に伝えていきます。

そして4年目へ…

「法政学への招待」もまさに市ヶ谷文系7学部の学生が学部の垣根を超えて学び合う科目です。大人数の講義形式ですが、クリッカーのクイズによる理解の確認、質問欄の大きいリアクション・ペーパーとその質問への返答となる授業通信の発行、そして最終回のグループワークと、できるだけ学生に積極的に学ぶ機会を提供するよう心がけます。

もうすぐ4年目の開講となります。さらに進化し続ける「法政学への招待」、これからも応援してください。まだ受講していない在校生の皆さん、ぜひ「ここ・法政大学で学ぶ自分」の確認のためにも履修しましょう。

「自由と進歩」の法政大学の卒業生となる—「法政学への招待」受講生が描く未来の姿 [はこちら](#)